防除所レポート

小麦の赤かび病の発生状況と今後の対策について

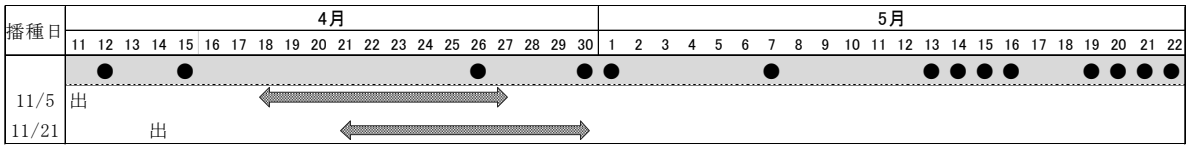
［現在の状況］

① 5 月下旬現在、小麦の赤かび病の発病穂率(本年値 0.2%、平年値 0.8%)、発生地点率（本年値 36%、平年値 42%）ともに平年並である。

② 小麦が赤かび病に感染しやすい時期は､開花期(出穂期 7～10 日後)から 10 日間程度であり、水戸市および龍ケ崎市（いずれも農業研究所圃場）では、下図の矢印（⟺）のとおりであった。

③ 4、5 月の水戸市および龍ケ崎市では、下図のように感染好適日が出現した。

水戸市（農業研究所圃場）



龍ケ崎市（農業研究所圃場）

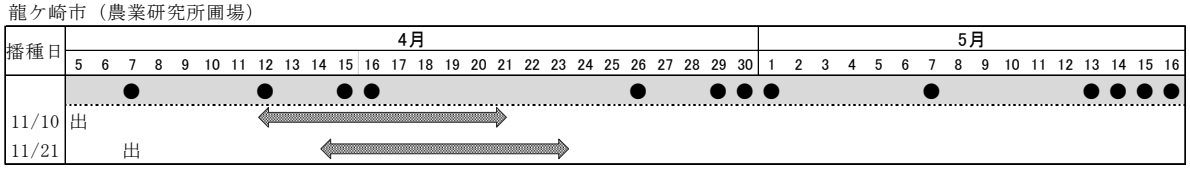


図　小麦の出穂期と赤かび病菌の子のう胞子飛散好適条件の出現状況

●：子のう胞子の飛散好適日
（日最低気温 10℃以上、日最高気温 15℃以上で、降雨日とその翌日）
出：出穂期（圃場の 40～50%程度の茎が出穂した日）
※地域や圃場により出穂期や飛散好適条件の出現状況は異なるので、参照の際は注意する。
⟺：感染しやすい時期(開花期（出穂期の 7～10 日後）から 10 日間)

［収穫期以降の対策］

① 収穫が遅れると、被害粒から健全粒へと感染が広がるおそれがあるため、適期収穫に努める。また、圃場内で倒伏した部分は多湿条件となり、感染が広がっているおそれがあるため、その部分は刈り分けて処分する。

② 含水率の高い麦を収穫した場合、袋の中で本菌がまん延することがあるので、収穫後は時間をおかずに適切な乾燥・調製を行う。

③ 小麦では、グレーダーによる粒厚選別（2.4mm 以上）等は被害粒の除去に有効である。

茨城県病害虫防除所
病害虫発生予報６月号(令和５年)より抜粋